



毎月第3主日は日本キリスト教団の定めた  
「日本伝道の推進を祈る日」です

## 共に祈るために

全国17教区が取り組んでいる伝道の働きを  
2教区（東京は支区）ずつ紹介します。  
全国の教区・教会・伝道所を覚えて  
祈りをあわせましょう。

献金についての問い合わせは  
日本基督教団事務局まで（TEL 03-3202-0541）

### 日本基督教団伝道推進 基本方針

- 祈祷運動 共に祈ろう
- 信徒運動 共に伝えよう
- 献金運動 共に献げよう

「日本基督教団全国伝道推進献金」  
振替口座 00140-7-293436

## 祈りの課題

### 神奈川教区

- コロナウイルス感染により制約された礼拝等から、教勢の回復に努めている106の伝道所・教会の宣教に主の導きと祝福がありますように。
- 青年委員会を始めとする各委員会の働きが主に祝されますように。

郵便振替00260-6-2513

「神奈川教区事務所財務部」

### 西東京教区

- 青年会を企画・運営する青年メンバーがさらに与えられ、喜びをもって仕えることができますように。
- ユース伝道の前進のため、各教会や諸団体とますます一致して歩むことができますように。

## 西東京教区

西東京教区の青年会は、コロナ禍においても青年メンバーが中心となり、オンライン集会や夕礼拝を共にする機会をもっていました。集う青年が多かったとはいえませんが、それでも難しい状況下で活動を担ってくださった青年メンバーの一人ひとりに感謝をしています。

今年度からは、ほぼ毎月、対面での集会を開催しています。ゲームやワークショップの賛美、チョコフォンデュなどの楽しい企画と共に、何より青年メンバーによる信仰の証しや、シェアリング（分かち合い）の時間を大切にしています。はじめは信仰生活の疑問や悩みをどこまで言ってもいいかと戸惑っていたようですが、会を重ねるごとに、思いを率直に語れるようになってきたと感じます。また御言葉に従って生きようとする仲間の姿に、良い意味で焦りを覚え、自らの信仰を見つめ直す機会にもなるでしょう。このようなシェアリングの文化が育ち、青年たちにとってここが一つの居場所となればと願います。

また教区内にSCF（学生キリスト教友愛会）があるのも大きなメリットです。SC

## 神奈川教区

神奈川教区青年委員会は、年に2回程度の「青年の集い」の開催と、年に1〜2回の「青年NEWS」の発行を活動の中心としています。

青年の集いは教区内の教会を会場に、20〜30名が集っています。本来は対面で行っていましたが、コロナ禍においてはオンライン開催となり、全国のさまざまな所からまた海外からの参加もあつて、新たな活動の展開を感じることができました。

雰囲気伝えるため、今まで行ったプログラムをいくつか紹介します。

「持ち寄りライブ」。参加者が持ち寄った



農村伝道神学校を訪問

Fとの連携体制が整っており、互いの集いに誘い合ったり、相談をしたりしながら、共に歩んでいけることは心強いです。さらには教区の中高生会で青年が奉仕をさせていただく機会もあり、ここでも良い連携が取れているように感じます。

確かに青年会の現実を目を留めれば、「あれがない、これもない」と暗い気持ちになることもあります。しかし「倉には、まだ種があるか。ぶどう、いちじく、ざくろ、オリーブはまだ実を結んでいない。しかし、今日この日から、わたしは祝福を与える」（ハガイ書2・19）という御言葉を信じて、共に青年伝道に思いを傾けていきます。（西東京教区青年会協力教師 山名高広）



8月27日、玉川教会での青年会「シェア」

音楽や食事を分かち合います。

「あなたの大切に行っている事を教えてくださいシリーズ」。旧教派の伝統を大切にしている教会を訪問して話を伺うことから始まりましたが、昨年度と今年度は、農村伝道神学校と日本聖書神学校を訪問しました。

「みんなで楽しく聖書・キリスト教人物研究シリーズ」。マルタやトマスといった聖書人物にとどまらず、新島八重、村岡花子、広岡浅子など、ドラマで取り上げられたキリスト者たちも研究対象となりました。「沖繩についての学び」。辺野古新基地の設計変更に対して、沖縄県に意見書を送りました。

青年委員会は信徒と教職3名ずつからなりますが、全員や高齢のため、青年のニーズと活動が合致しているか、常に気を付けて計画を立てています。コンセプトは「年齢が2ケタの人はみな青年。1ケタと3ケタはオプザーバー」。誰でも参加できるさまざまな活動を積極的に行っていくことを願っています。もちろん委員が楽しんでいなければ、参加者にも楽しさが伝わりませんので、実現は難しいようなアイデアも出し合い、笑いあっています。

（神奈川教区青年委員会委員長 有賀豊彦）